

令和4年度 自己評価実践報告書

学 校 名 福島県立好間高等学校

I 自己評価の概要

1 『学校経営・運営ビジョン』について

前年度の学校評価結果に基づき、令和4年度の教育目標及び重点努力目標を協議し、全職員共通理解のもと「目指す生徒像」を実現するため各項目のねらいを下記のとおり確認し、4つの重点目標を策定した。

＜重点目標1＞ 「自らを律する力を鍛えます」

規律ある学校生活を送らせるために、全職員共通理解のもと指導体制を構築し、安全教育やあらゆる教育活動の中で徹底した生徒指導を実施し、基本的生活習慣の確立を目指す。

＜重点目標2＞ 「学ぶ力を鍛えます」

授業時数の確保、基礎学力養成問題集の有効活用、総合的な学習の時間の計画的運用により、基礎学力向上と家庭学習の習慣化を図る。また、組織を有機的に連携させ、各種資格取得の推進を図るとともに、計画的な進路指導を展開し進路実現を目指す。

＜重点目標3＞ 「心と身体を鍛えます」

部活動、生徒会・委員会活動、ボランティア活動、教科横断的な道德等を積極的に推奨し、生徒自らがそれらの活動の意義を実感・体験できる体制を構築する。また、国際交流にも参加させ、グローバルな人材と豊かな心を育成する。

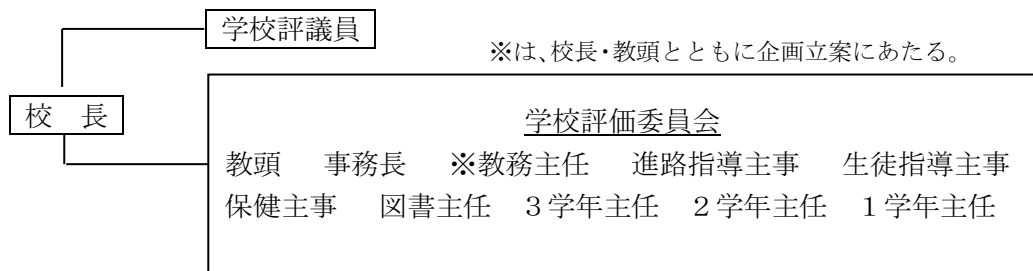
＜重点目標4＞ 「保護者や地域との連携で鍛えます」

学校・家庭・地域の三位一体となった教育活動を展開するため、教育活動の情報を積極的に地域に発信するとともに、諸団体との連携を一層密に相互協力体制の構築を図る。

2 校内組織体制について

職員会議が学校評価委員会を兼ねる。教頭及び教務主任が企画立案を行い、事業が円滑に進行するよう評価事業の効率化を図った。

【組織図】



3 自己評価年間計画について

- (1) 令和4年度学校評価事業計画
- (2) 好間高等学校における学校評価システム
- (3) 教職員に実施してきた自己診断カードを廃止し、学校経営・運営ビジョンに基づいた評価に変更した。また、生徒、保護者の評価アンケートを紙中心から段階的に電子化に移行させる。
- (4) 評価のねらい
 - ① 学校評価の概念が、学校を外部に開くことであることから、自己評価や外部評価をとおして、学校を不断の改革・改善の緊張感の中に置くことができる。
 - ② PDCAサイクルを、学年・部等の校務分掌や自己の授業実践の中で取り組み、組織力や自己変革への意欲の高揚を図る。

Ⅱ 評価結果の概要

1 実施方法等

項 目	年 度 末 評 価			
	実施部署	評 価	実施方法	コメント
生 徒	学校評価委員会	4段階評価(A～D)	アンケート (一部電子化)	生徒の実態と課題を把握し 改善へ向けた方策等の資料 とした。
保 護 者	学校評価委員会	4段階評価(A～D)	アンケート (一部電子化)	自由記述欄も併用し、保護者 の学校に対する期待や要望の 把握に活用した。
教 職 員	学校評価委員会	4段階評価(A～D)	アンケート (電子化)	教職員の意識改革と意識向 上実現へ向けた一助とした。
学校評議員	学校評価委員会	意見聴取等	評価書	地域社会が本校に寄せる期待 や評価、さらに本校が目指す 教育活動について明確に把握 することができた。

2 アンケート及び回答数

	初期評価		中間評価		年度末評価	
	対象者	回答数 (%)	対象者	回答数 (%)	対象者	回答数 (%)
生徒	178	177 (99%)	174	168 (97%)	166	165 (99%)
保護者					166	101 (61%)
教職員	22	21 (95%)	22	21 (95%)	22	22 (100%)
学校評議員					3	3 (100%)

アンケートの回答率は、生徒（長欠者数名）・教職員ともに100%に近くなった。また、保護者については、平成22年度に年度末のみ実施で目的が充足できることを確認したため、年1回の実施となっており、今年度から段階的に電子化に移行させる試みを行った。生徒を通じてQRコードを配付し、それを読み取って回答する形式とした。回答率は6割ほどであったが、改善を加えてこの形式を継続していきたい。

3 評価基準について

評価基準	A	B	C	D
教 職 員	大変優れている	やや優れている	やや劣る	劣る
生 徒	とてもそう思う	そう思う	あまりそう思わない	全くそう思わない
保 護 者	大変良い	良い	あまり良くない	良くない

評価基準は、上記のような4段階とし、肯定的な意見と否定的な意見が明確に分かれるように設定している。これにより、生徒や保護者の、本校に対する評価傾向を概ね把握することができると考える。

4 年度末評価のまとめ

(1) 年度末評価実施の目的、意図

- ① 教職員、生徒、保護者が、それぞれの立場から1年間の教育活動を評価し、自己評価の客観性・透明性を高め、開かれた学校づくりに努める。
- ② 学校、家庭、地域が一体となり現状把握と課題解決へ向け共通理解を深め、様々な視点から検証し学校運営の改善を促進する。
- ③ 学校が、自らの教育活動や学校運営について、継続的に組織的な改善を図り、学校評価の実施と結果の公表により、適切に説明責任を果たすとともに、教育活動全般において、保護者や地域等から理解と参画を得て、その連携・協力による学校づくりを進める。

(2) 年度末評価結果の分析及び結果概要

- ① 年度末評価・反省（学年・部・教科）
- ② 学校評価（最終）（生徒・保護者・教職員）集計結果

(3) 重点努力事項に対する達成状況等（学校経営運営ビジョンの①～⑯に対しての反省）

< 1 自らを律する力を鍛えます >

- ① 学びの環境
 - ・適宜資料の入れ替えを行った。（進路指導部）
 - ・2年ぶりに開催された。学校代表として生徒会長が参加した。（生徒指導部）
 - ・季節の飾りつけや本の展示を行った。生徒や教員のリクエストも積極的に受け入れた。（図書部）
 - ・図書購入や寄贈が多かったが、統合に向けての整理が進まなかった。（図書部）
 - ・「ICTを活用した授業」との関わりの中で、よりよい活用方法を検討していくことが課題である。（図書部）
 - ・保有する教材等の一覧を作成し、周知するなどの広報活動は不十分であった。（図書部）
 - ・令和5年度の入学者の人数が確定後に、費用・鑑賞内容を含めて準備を進める。（図書部）
- ② 服装あいさつ
 - ・指導に時間がかかるものの、少しずつではあるが、改善する意識が高まっていると思われる。生徒の問題行動に対応するためにも、部員の増員も必要である。（生徒指導部）
 - ・再検査を受ける生徒は決まっている。学年指導により改善されるところが多かった。（生徒指導部）
- ③ いじめの絶無
 - ・ほとんどの生徒が学校のルールについて理解をしているが、ルールを守れない生徒も見受けられた。（1年）
 - ・新担任・副担任だけではなく、生徒指導部も協力して新入生の中学校全てを訪問し、情報を共有した。（生徒指導部）
 - ・各学年の情報共有があり、指導に役立てることができた。（生徒指導部）
 - ・養護教諭、スクールカウンセラーと学年の連携が強化された。いじめアンケートを改善した結果、面談は限られた生徒であった。（生徒指導部）
- ④ 交通事故防止
 - ・自転車事故が数件あり、保険加入推進を実施した。（生徒指導部）
 - ・警察との連携に努めたが、事故は減らなかった。（生徒指導部）
 - ・入学時オリエンテーション、3年生自動車学校の入校時の保護者会を実施して、届け出を徹底した。（生徒指導部）

< 2 学ぶ力を鍛えます >

⑤ 授業態度意欲

- ・大半の生徒が真剣に取り組んでいたが、2年次よりも取組が不十分な生徒が数名いた。(3年)
- ・授業に臨む態度が向上し、各自が目標を設定して学習に取り組む姿勢が見られた。出欠状況が改善し、最高学年進級に向けて生活態度が整ってきた。(2年)
- ・授業に対する取組はほぼ良好であるが、集中力が持続しない生徒も見受けられた。(1年)
- ・生徒一人ひとりの図書館利用のマナーは良かった。しかし利用者の減少が気になった。(図書部)

⑥ 学習習慣

- ・教科の課題やプリントへの取組が良好であり、期日を厳守して提出することで評価に反映された。(2年)
- ・多くの生徒は時間を守ることができていたが、特定の生徒に遅刻の多い生徒も見受けられた。(1年)
- ・授業交換や同科内補充を適切に実施し、可能な限り自習時間を減らして、授業時間を確保することができた。(教務部)
- ・提出状況は良好で着実に基礎学力を付ける生徒がいた一方、提出日直前に仕上げる生徒もいた。家庭での学習習慣化という点で手立てを講じる必要がある。(教務部)

⑦ 基礎学力

- ・週末課題を提出させ、取り組ませた。ある程度の効果があったが、一部で不十分な生徒も見受けられた。(1年)
- ・アクティブラーナー養成研修会を受け、10月に2週間授業互見週間を設定することができた。校務支援システムのサポートは相談を受けたその場で確実に行うことができた。(教務部)
- ・教職員の1人1台端末活用スキルを向上させる機会として、職員会議を電子化した。LGBTや若者の自殺予防教育の研修に参加し、そこで得られた知見を職員会議で共有することができた。研修機会の要望があった際は、考查期間等を活用し、調整した。(教務部)

⑧ 進路意識

- ・進路指導部及び保護者と連携しながら、生徒個々の進路希望に応じた取組ができた。(3年)
- ・少数ではあるが、積極的に上級資格に挑戦し取得を果たした。(3年)
- ・総合的な探究の時間やLHR、政経の授業等を活用し、18歳から成人となるに必要な知識や課題について考えさせることができた。(3年)
- ・進路目標の早期設定に努力した。進路ガイダンスや履歴書作成講座に真剣な態度で参加し、進路決定のためのスキルの向上に励んだ。(2年)
- ・選択授業においてより専門的な知識の習得に努めた。(2年)
- ・進路ガイダンスを計画的に実施し、意欲を高めさせた。(1年)
- ・ステップ(本校独自教材)を活用した基礎学力養成のための取組とともに、今後3年間を見据えた段階的な探究の取組を計画・実施することが必要である。(教務部)
- ・教育課程委員会(進路指導部担当者も出席)を開催し、より良い教育課程の編成について話し合うことができた。また、選択科目の決定時期を1年次と2年次に設定し、生徒の進路実現につながる形に改善することができた。(教務部)
- ・資料をアップデートし、生徒が使いやすいものを作成することができた。(進路指導部)
- ・小型車両資格のみの希望であった。生徒の希望があれば講習会を実施したい。(進路指導部)
- ・学年と進路指導部が連携し、生徒の進路実現のために対応することができた。(進路指導部)
- ・インターンシップは次年度から2学年で実施のため、これから準備がスタートする。(進路指

導部)

- ・学年と連携し、生徒が積極的に面接指導を受けていた。(進路指導部)

< 3 心と身体を鍛えます >

⑨ 思いやりの心

- ・球技大会、文化祭等の学校行事に積極的に参加し、概ね良好であった。(3年)
- ・様々な活動を通して、集団生活における協力することの大切さを理解させることができた。(3年)
- ・校内球技大会や文化祭を実施する意義をしっかりと理解しながら参加し、生徒間の協調性が育成された。(2年)
- ・生徒会行事に積極的に取り組む姿勢が見られたが、意欲の向上まで至らなかった。全職員で協力をする体制が必要である。(生徒指導部)

⑩ 心の鍛錬

- ・あいさつはよくできているが、声の小さい生徒も多いので指導を継続していく。(1年)
- ・球技大会や公開文化祭で、各自の役割をきちんと果たし、楽しい時間を過ごすことができた。いわきの街をきれいにする運動等にも意欲的に取り組んだ。(1年)

⑪ 身体の鍛錬

- ・全員が部活動に加入しているが、活動量は差があるようであった。部活動を変更した生徒も数名見られた。(1年)
- ・感染症予防のための環境整備に力を入れた。今後も予防意識を高める指導を継続して行っていく。(保健厚生部)

⑫ 主体性の向上

- ・日本文化の中心である京都や大阪の歴史や伝統について調べ、有意義な修学旅行実施に努めた。(2年)
- ・修学旅行では、時間を厳守して行動する意識を持ち、規律ある集団行動をとることができた。(2年)
- ・授業中での指導とともに、保健室においても個別の保健指導を行っている。生徒一人ひとりが自らの生活を見つめることを目標に指導を行った。(保健厚生部)
- ・避難訓練等により、生徒の防災意識を高めることができた。火災や地震など常に安全を意識した行動をとれるように今後も継続した取組をしていく。(保健厚生部)
- ・日々の清掃等を通じて校舎内外の美化に努めることができた。(保健厚生部)
- ・感染予防に注意しながら、いわきの街をきれいにする運動を予定通り実施できた。生徒が地域の美化に目を向ける大きなきっかけとなった。(保健厚生部)

< 4 保護者や地域との連携で鍛えます >

⑬ P T Aの充実

- ・3年ぶりに総会を開催した。参加保護者は少なかったが、ほとんどの保護者から委任状の提出があった。保護者の状況に配慮した活動の検討が必要である。(教務部)
- ・あいさつ運動を保護者の協力で、予定どおり年6回の実施することができた。(教務部)
- ・P T A調査広報委員の協力により、「P T A会報 6 5 号」を3月1日付で発行した。(教務部)
- ・教員の協力による授業のやりくりとP T A役員の協力により、地区高P連の各行事に参加することができた。(教務部)
- ・学校行事の際のP T Aによる豚汁サービスは、新型コロナウイルス感染症予防の観点から今年度は中止し、文化祭校内発表の日にパンを配付した。(教務部)

⑭ 保護者との連携

- ・定期的に情報を発信することができた。(進路指導部)
- ・4月に保護者ガイダンスを実施し、生徒・保護者の進路意識の向上を図った。(進路指導部)

- ・健康診断や歯科検診など予定どおり実施することができた。診断結果をもとに事後指導にも力を入れた。(保健厚生部)
- ・保健だよりの作成や健康管理表などを用いて、概ね基本的生活習慣の確立に努めることができた。しかし、個々の基本的生活習慣の確立という面では難しい部分もあった。(保健厚生部)
- ・消防署と連携し、学校消防隊の任務等を確認することができた。(保健厚生部)

⑮ 評議員・地域

- ・同窓会事務局との連携により準備を進め、2月28日に「令和4年度同窓会入会式」を実施することができた。(教務部)
- ・好間町連合PTA球技大会は、新型コロナウイルス感染症予防の観点から、今年度は中止となった。(教務部)

⑯ 不祥事の絶無

- ・各行事の様子や感染症対策、入試情報について、適宜情報を更新した。また、緊急メールも有効活用できた。(教務部)
- ・学校パンフレットを作成し、学校の魅力を発信した。体験入学では感染症対策のためICTを活用し、実際に中学生を招いて実施することができた。(教務部)

Ⅲ 広報の概要

1 目的や意図

好間高校の状況を保護者の皆様や地域の皆様、更に多くの方々に広く知っていただくために、ホームページによる情報公開、更にはPTA会報、一斉メール等を行った。

2 実施計画・及び実施状況

- (1) ホームページ：行事ある毎に随時更新した。学校の情報や入試情報をリアルタイムでお知らせした。また、画像も掲載した。
- (2) PTA会報：保護者との合同制作である。11月と12月と1月に定例会を行い作成し、3月1日の卒業式に発行した。写真を多く掲載し、見やすくする等工夫した。
- (3) 一斉メール：適宜、配付プリントの確認や緊急連絡等で活用した。また学校閉庁日等の連絡手段として、生徒、保護者に学校アドレスを周知した。
- (4) 進路だより：キャリア教育の方針に基づき、生徒の進路意識の向上のため発行した。
- (5) 図書だより：新着図書の紹介等を全校生徒に周知するため、適宜発行した。
- (6) 保健だより：感染性となる疾病予防や季節に応じた健康話題を掲載して毎月発行した。

3 配付対象、配付時期、配付方法等

- (1) 配付対象：全生徒と保護者
- (2) 配付時期：PTA会報は3月1日、保健だよりは毎月発行した。その他は不定期であった。

4 実施してみたの反省点等

ホームページは行事ごとに係が更新した。仕事に慣れれば、負担は少ない。また、画像等での確に情報が発信できているので生徒の様子が分かりやすい。今後は進路だより、図書だより、保健だよりもホームページに掲載できるかどうか、検討したい。

Ⅳ 次年度へ向けて

1 評価結果の特徴、自己評価実践の評価等

生徒、保護者からのアンケート結果は、概ねA(大変良い)、B(良い)が多く、決して悪い評価ではない。現在行っている教育活動をより効果的なものにしていくことに尽きる。本校は令和7年度の統廃合され、新しい学校になるが、在籍している生徒の教育環境を保障できるようにしたい。

- 2 自己評価全体の次年度の取組について（ビジョン・組織・年間計画での反省点に基づいて）
今年度、教職員評価を学校経営・運営ビジョンに合わせた形式に変更した。また、新たにGoogleフォームを使ってのアンケート実施に取り組んだ。次年度はそれをさらに進めていく予定である。
- 3 次年度へ向けての課題、改善点、重点努力事項、展望など
統廃合を見据え、好間高校としての「まとめ」の時期になる。学校評議員からの御意見を伺いつつ、学校評価を有効に活用していく。
- 4 終わりに
コロナ禍での生活も3年を経過し、ウィズコロナがより浸透してきている。学校での教育活動もコロナ前に戻りつつあり、次年度からマスクの着用を求めないという方針が文部科学省から出されている。生徒主体の学校経営ができるよう、より「開かれた学校」とすべく、関係機関や地域資源をより活用して教育活動を展開していきたい。